

## 伝統文化をベースに日本人の精神的ルーツを探り、 閉塞した現代社会に生かす。

一般社団法人日本伝統芸術国際交流協会は、「日本伝統芸術フォーラム」を毎月開催し、日本人の精神的ルーツやアイデンティティを探る研究をしてきた。今回その内容を出版し、伝統芸術の振興を図る他、伝統芸術以外のさまざまな分野へも提案しようと考えている。

### 「保存する」と「取り入れる」は 古来の日本人気質。

歌舞伎や能楽、長唄、浄瑠璃など日本には数多くの伝統芸術がある。しかし、それぞれが全く無関係に生まれ、発達してきたかというそうではない。信仰から神楽が生まれ、能楽という形式美として完成していったように、同じ土壌から生まれてきたものが多い。

一般社団法人日本伝統芸術国際交流協会が取り組んでいる「日本伝統芸術フォーラム」はそうした裾野の広い研究を行い、伝統芸術を伝承していこうというものである。

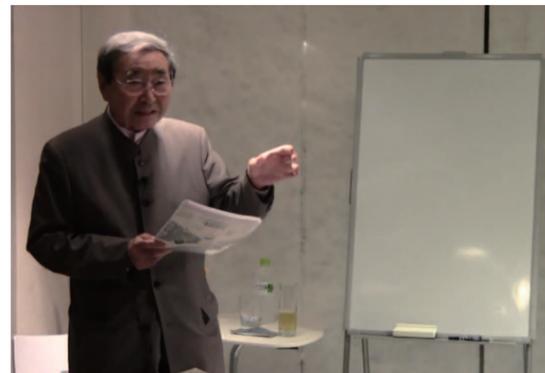
同協会 理事の庄司真吾さんは、「私どもの活動は日本の伝統文化、伝統芸術および現代舞台芸術の振興、また国際交流の促進などがメインとなります。ただ見せるとか、見るではなく伝統芸術に潜む日本人のエッセンス、たとえば美意識や感性を日本人にも再発見して欲しいし、海外へも発信していきたいと考えています」と語る。

「日本伝統芸術フォーラム」は日本特有の文化を根底から見直すために2011年度から始まった。毎月東京の銀座サロンで開催され、講師はさまざまな分野の芸術家や評論家などが務める。

同協会の名誉会長でもある文学博士の三隅治雄さんが講師を務めたフォーラムの内容を見ると、日本の地勢的な位置、気候、地形に始まり、交通、気質、農業、そして文化へと話は実に多様にわたる。

日本は村単位の生活が長く、他地域との交流は乏しかったために、文化的なものも村の中に長く保存されるとい

う特徴があった。村根性というのか、あまりよそに出したがないのだ。例えば獅子舞がどこかの村で始まって隣村にはすぐに伝わらない。しかし、「隣村では何か面白そうなことをやっているのひとつ盗んでやれ」となり、



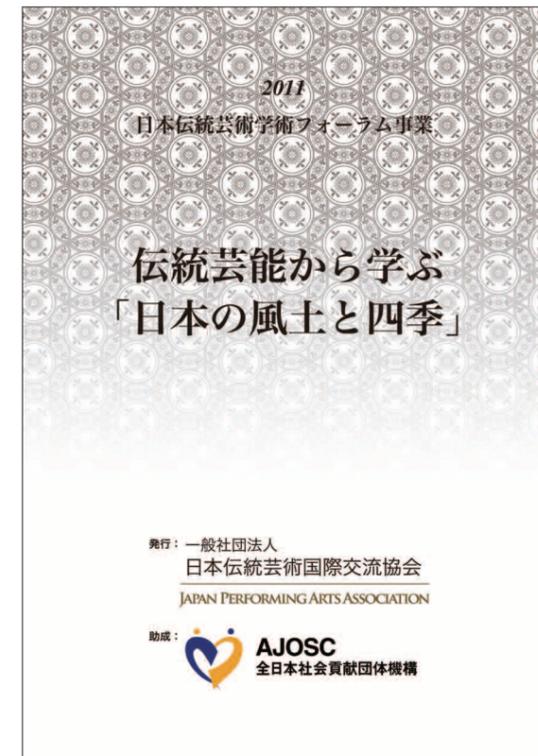
三隅治雄さんによる第1回目の「日本伝統芸術フォーラム」



元NHK 伝統芸術チーフプロデューサーの下田秀夫さんが講師を務めたフォーラムの様子



フォーラムには、毎回伝統芸術に携わる人たちが多く参加した



今回出版した「伝統芸術から学ぶ『日本の風土と四季』」

徐々に伝わっていく。その間に村ごとに特色のある獅子舞ができてくる。日本人にはこうした「保存する」という気質と「新しいものを積極的に取り入れる」という気質の二面性がある、講義ではそのようなことも語られる。

### 復興の時代にこそ、 日本人の価値観が必要になる。

「日本伝統芸術フォーラム」には伝統芸術に携わる人たちが多く参加した。自分の専門分野を、日本の風土から見直すという機会はそう多くはない。受講生からは「目からうろこが落ちた。自分たちの作法や規則がどこから生まれたか、また他の分野との関連性なども初めて知ることができた。表現にも深みがあると」という反響が寄せられた。

「今回のフォーラムは実演者だけではなく、日本の伝統文化について研究されている方にも役立つ内容であることが改めてわかりました。また、和の文化を若い人たちにもっと知ってもらふ必要性も感じました。しかし、フォーラ

### 担当者より



**地域社会の  
再構築のためにも必要な  
資料ができました。**

一般社団法人  
日本伝統芸術国際交流協会  
理事  
庄司真吾さん

今、地域やコミュニティのあり方が見直されています。お祭りや伝統文化はその活性剤にもなりますので、今回資料を残せたことは重要だと思います。地域密着の貢献活動を続けてこられたAJOSCならではのご配慮で助成を受けられましたことを、心より感謝申し上げます。

ムだけでは情報提供範囲に限りがありますので、その内容を編集出版したかったのです」と庄司さんは語る。今回、AJOSCはその面の助成を行った。

「新しいものを積極的に取り入れるという日本人気質が発揮されたためか、経済優先型社会や交通、メディアの発達にもなって、今の日本は西洋文化に染まり、また全国一様になってしまっている。新しいライフスタイルの中に、伝統文化を取り入れることこそが、閉塞した社会への突破口になる」というのが庄司さんらの主張である。

「特に、大震災の復興中の今の時代だからこそ、なくてはならない価値観がある」と庄司さん。

まとめられた冊子の中でも、コミュニティの大切さや、祭り、郷土芸能の底力などが語られている。競争だけではなく、助け合わなければ生きていけない時代が再びやってきたととらえている。

「今、若者を含め人々の不安定な精神が問題になっていますが、その理由のひとつは、以前の価値観や生活習慣が切り捨てられてしまったことにもあると考えます。この出版物は芸術関係者だけでなく、多くの方々に読んでいただければ、解法の糸口になるのではないかと考えています」

今後同協会ではフォーラムを続けていくとともに、教育や福祉などさまざまな分野に向けて情報発信を行っていく予定である。